

生活支援体制整備事業について (富士宮市地域支えあいプロジェクト)

令和6年4月 高齢介護支援課

生活支援体制整備事業とは

介護予防

家にこもらず、通いの場や活動に参加すること。週に1回程度、体操を行うこと等

生活支援

調理、買い物、掃除などの家事支援、見守りや安否確認、外出支援等

今後、高齢者の介護予防と生活支援のニーズが高まるが、公的なサービスだけでは不足していく。「地域の支えあい」が重要になる。(地域の居場所や生活支援ボランティアなど)

生活支援体制整備事業とは、市が中心となって、「地域の多様な主体(地縁団体、民生委員、NPO法人、民間企業、シルバー人材センター、社会福祉法人、社会福祉協議会、地域包括支援センター等)」と連携しながら、「地域の支えあいの充実」及び「高齢者の社会参加の推進」を一体的に図っていくことを目的とする事業です。

生活支援体制整備事業の背景

人口減少・少子高齢化

2017年 人口: 133,789人
高齢者数: 37,024人
(高齢化率**27.7%**)

2040年 人口: 107,199人(26,590人減)
高齢者数: 40,842人(3,818人増)
(高齢化率**38.1%**)

支え手の減少

2017年 生産年齢人口) 79,338人
2.2人で1人の高齢者を支えていた

2040年 生産年齢人口) 56,817人
1.4人で高齢者1人を支えることに

要支援・要介護認定者の増加

2017年 要支援・要介護 5,927人
(うち要支援認定者 1,159人)
事業対象者 0人(制度導入前)

2022年 要支援・要介護 6,260人
(うち要支援認定者 1,388人)
事業対象者 91人

認知症高齢者の増加

2017年 認知症高齢者数
(認知症自立度Ⅱ以上) 4,078人

2022年 認知症高齢者数
(認知症自立度Ⅱ以上) 4,516人

独居高齢者の増加

2021年4月 総世帯数 57,466世帯
独居高齢者数 8,906人

2022年4月 総世帯数 57,676世帯
独居高齢者数 9,256人
(1年で350人の増加)

介護保険料の増加

第8期 基準月額 6,075円

第1期2000年当時、月額2,949円

生活支援体制整備事業の背景

- 支援が必要な人が増える一方、担い手となる専門職は不足していく
→地域のインフォーマルなサービス(地域資源)がますます必要になっていく

例: インフォーマルサービス(地域資源)

- ・地域における手助け
近所での見守り、ごみ出し支援など
- ・通いの場
居場所(寄り合い処など)、体操教室(スロトレなど)

生活支援体制整備事業の背景

地域に不足している資源はだれがつくる？

地域包括支援センター？ ケアマネ？ 行政？

地域住民？

背景にあるもの

- ・専門職の業務負担増
- ・介護にかかる給付費の増大
- ・自治会や民生委員の負担増

地域に不足している資源はだれがつくる？

A. みんなでつくっていく

(地域住民、行政、社協、専門職、民間団体・・・)

ただし、サービスの創出をコーディネートする役割の者がいます

→ 「生活支援コーディネーター」

不足するサービスの創出、ネットワークづくり、
地域資源の把握を行う

生活支援コーディネーターの配置

市は、地域の支えあいの体制を整備するため、以下の3つのコーディネート機能を担当する者を「生活支援コーディネーター」として配置します。

1 地域に不足するサービスの創出

- ・地域の困りごと(ニーズ)を把握して、対応する助け合いや居場所を創る
- ・サービスの担い手を養成する(担い手になれそうな人に働きかける)
- ・元気な高齢者が担い手として活動する場を創る

2 困りごと(ニーズ)と活動したい人をつなげる(マッチング)

3 関係団体間のネットワークを構築する

生活支援コーディネーターの役割

地域の支えあい

- ・運動ができる「通いの場」
- ・外出支援
- ・買い物、ゴミだし、掃除などの家事支援
- ・見守り、安否確認

高齢者の社会参加

- 現役時代の能力を活かした活動
- 興味関心がある活動
- 新たにチャレンジする活動
- ・一般就労、起業
- ・趣味活動
- ・健康づくり活動、地域活動
- ・ボランティア活動等

生活支援の担い手としての社会参加

コーディネート

みんなで考える「場」 = 「協議体」



生活支援コーディネーター
(SC)

協議体の設置

市は、「生活支援コーディネーター」と、「地域の多様な主体（地縁団体、民生委員、NPO法人、民間企業、シルバー人材センター、社会福祉法人、社会福祉協議会、地域包括支援センター等）」が参画する「協議体」を設置します。

「協議体を設置する目的」

- ①生活支援コーディネーターが地域の多様な主体とともに支えあいの体制整備を行えるようにするため
- ②多様な主体の情報共有及び連携強化を図るため

協議体の役割

- ・生活支援コーディネーターが地域の多様な主体と連携し支えあいの体制整備を行うこと
- ・地域の困りごとやニーズを把握し、地域にある資源のまとめと見える化を行うこと
- ・地域の支えあいに関する企画を立案し、方針を決定すること
- ・各団体の情報交換をし、連携を強化すること

第1層協議体、第2層協議体の体制について

第2層協議体(市内7か所設置)

第2層生活支援コーディネーター
(社会福祉協議会委託7名)

大宮西

芝川

富士根北
富士根南

大宮中
大宮東

富丘
大富士

上野
北山

上井出
白糸

「委員構成」 地区社会福祉協議会委員、区長、
民生委員、地域包括支援センター、
シニアクラブ、地元企業等

第1層協議体(市全体で1つ) (富士宮市地域支えあいプロジェクト)

第1層生活支援コーディネーター
(委託業者1名、市職員1名)

委員14名(所属団体からの推薦)

「委員構成」 富士宮市社会福祉協議会、地区
社会福祉協議会、区長会連合会、民生委員児
童委員協議会、ボランティア連絡会、シニアク
ラブ、シルバー人材センター、各第2層協議体

令和6年度～
各第2層協議体代表者1名が第1層協議体
委員になる体制とした

第1層協議体、第2層協議体の役割

第1層協議体(市内全域の課題)

- ・地域で解決が難しい、市全域にかかわる高齢者の課題を協議する
- ・必要に応じて行政へ提言を行う

第1層協議体ワークショップ

第1層協議体によりテーマごと開催し、課題の整理や第2層協議体(地域)との連携をはかる

第2層協議体(地域の支えあい)

高齢者の課題について協議し、地域でできる支えあいのしくみについて検討する

大宮西

芝川

富士根北
富士根南

大宮中
大宮東

富丘
大富士

上野
北山

上井出
白糸

富士宮市地域支えあいプロジェクト (第1層協議体)

「活動の具体例」

- 1 高齢者ごみ出し支援プロジェクト
- 2 高齢者移動支援
宮タク利用促進プロジェクト

高齢者ごみ出し支援プロジェクト

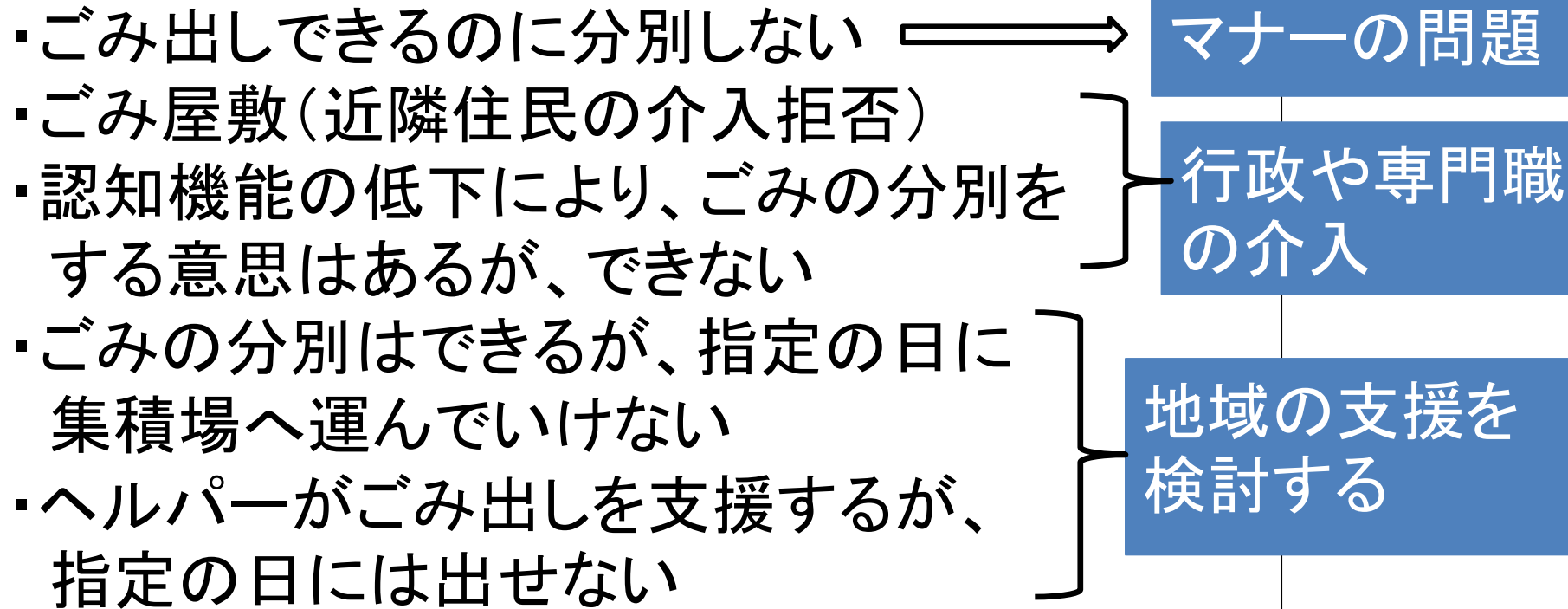
(1) 経緯

令和3年度～ 主に第1層協議体で実施

- ①介護保険事業所に高齢者の困りごとアンケートを実施
- ②市内全域に共通する課題として、移動の困りごと、ごみ出しの困りごとが挙げられた
- ③市全域の課題を検討する第1層協議体で検討し、まずごみ出し支援から取組むことに決定した。

高齢者ごみ出し支援プロジェクト

(2) ごみ出しの課題で、地域で考えられることは？



高齢者ごみ出し支援プロジェクト

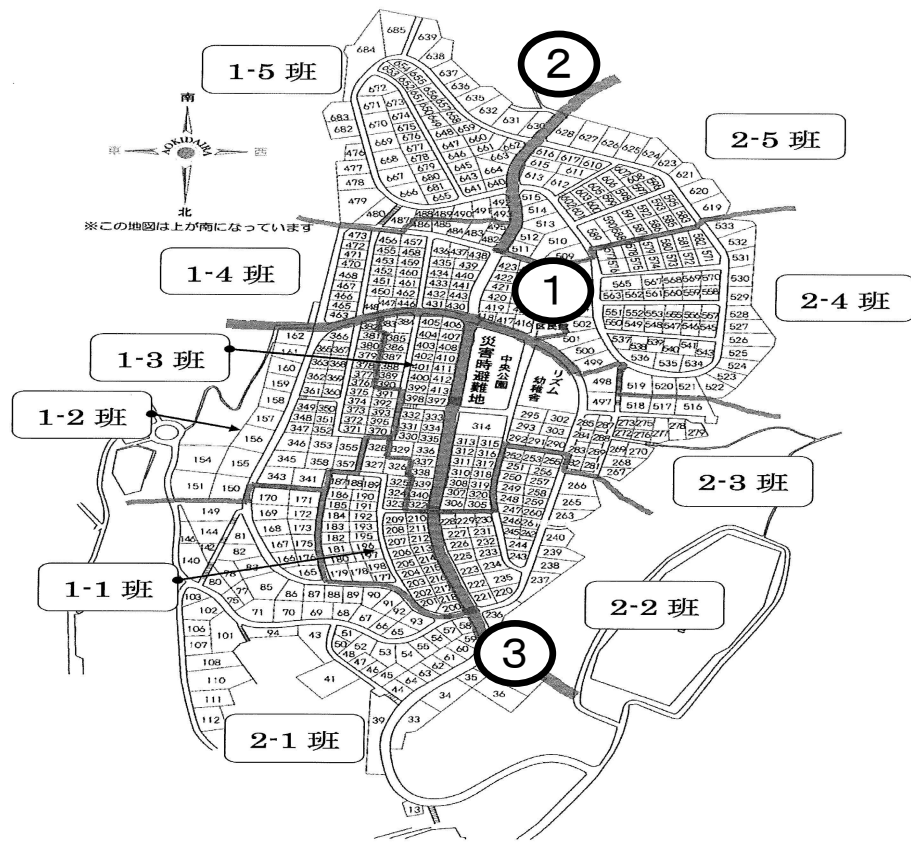
(3) モデル地区の選定

「青木平区」 地形的に坂のアップダウンがあり、高齢者世帯が増加し区全体でごみ出しの不安を抱えていたためプロジェクトに協力していただいた



・ごみ出し支援についての不安
「以前、高齢夫婦のケガに伴い、区のボランティアでごみ出しを支援した。一時的な支援だと思っていたが、やっているうちに支援が当たり前となり、終わりどきが分からなくなってしまった」

青木平区 新班体制図 H29年4月～



青木平区データ

- ・人口: 849人
- ・高齢化率: 40.7%
(令和3年10月時点)

・ごみ集積場3カ所

・ごみ集積場の中間に位置する人は、どちらに行っても1キロほど歩く。また、行き帰りのどちらかは登りになる

第1ごみ集積場



第3ごみ集積場



家の前の坂



高齢者ごみ出し支援プロジェクト

(4) リアルな困りごとをキャッチする

ワークショップin青木平区(令和3年10月28日)参加者

- ・ごみ出しに困難を抱える本人 3人
- ・ごみ出しが難しい人のケアマネジャー 2人
- ・ごみ出しをサポートしている地域住民 2人
- ・シルバー人材センター、ヘルパー事業所
- ・地域包括支援センター
- ・社会福祉協議会
- ・生活環境課(ごみ出し担当課)



ワークショップin青木平区 リアルな声

- Mさん(87)
- ・生ごみは乾燥させて庭に捨てている
 - ・最近骨折してごみ出しに困っている

- Fさん(85)
- ・自宅が高い場所にあり、道路に出るまでに急な坂を下る必要がある
 - ・集積場まで1キロあるが、健康のためカートを使い歩いてごみを運んでいる
 - ・雨の日はごみ出しに行けない
 - ・「手伝おうか」と言ってもらえるが、できるうちは自分でやりたい



ワークショップin青木平区 リアルな声

- Tさん(85)
- ・高齢夫婦で、妻が要介護状態
 - ・おむつが多くごみが重くなる
 - ・あまり近所の人にごみを見られたくないから、朝早く一番にごみを捨てている

- Hさん(86)
- ・認知機能の低下により要介護認定がある
 - ・ごみの分別が難しくなり、可燃ごみとそれ以外が分けられない
 - ・曜日の感覚がなく、ごみの日以外に捨ててしまう (→ヘルパー支援を受けることに)



ワークショップin青木平区

生活環境課より(前提となる知識)

- ・地域住民がごみ出しを支援するのは集積場まで
(許可業者のみ、清掃センターへ他人のごみを運べる)
- ・許可業者は、家からごみを運んでくれる(有料)
(業者については生活環境課へ問い合わせ)
- ・集積場は、20世帯以上の要望があり、場所が確保され、
回収作業が問題なければ申請により新設できる
- ・富士宮市はステーション方式(集積場からごみを回収)
都市部のように、家の前から戸別収集するには、コスト
増大の問題から難しい

ワークショップin青木平区 ごみ出し支援アイデア

- 「高齢者で軽トラを運転できる人がいるから手伝ってもらえるかもしれない」
- 「朝、通学の学生にも手伝ってもらえないかな」
- 住民による有償ボランティア
- 安価で家の前からごみを回収してくれるしくみ
- ごみを捨てやすくする工夫
(缶→紙パックへなど)
- 集積場を新しく増やす



高齢者ごみ出し支援プロジェクト

(5) 実際に試してみる

テスト実施in青木平

集積場までごみを運ぶのが難しい
高齢者を対象に、家の前からごみを
回収するしくみをテスト実施した



期間	令和4年2月～3月(2か月間)
対象者	8世帯(集積場までごみを運ぶのが難しい高齢者)
内容	対象者の家の前に回収ボックスを置き、テスト協力業者が家をまわってごみを回収し、まとめて集積場へごみを捨てる (生活環境課、富士宮清掃協力のもと実施)

テストin青木平区 テスト後の聞き取り

- ・冬の寒い時期は朝ごみを出しに歩くのが大変だったから助かった(寒い、地面が凍っていて危ない)
- ・寒い朝、ごみ出しに歩かない代わりに、暖かい日中健康維持のため散歩をするようにしていた
- ・普段、ごみの量は1袋だが、たまに多くなって2袋になってしまうとごみを捨てにくいのが大変だった。家の前で回収してくれて助かった
- ・月1,000円以下なら有料でもサービスを受けたい
- ・(一方、「私は有料ならいらぬ。まだ自分で出せる」)
- ・カラスや猫除けにポリバケツは必須だった

高齢者ごみ出し支援プロジェクト

(6) 本番実施までのハードル

テスト実施により得られたこと

- ・ごみ出し支援の効果的な形が分かった

週1回、軽自動車1台で対象の家を順に周り、家の前に置いたポリバケツから可燃ごみを回収する。回収したごみはまとめてごみ集積場へ捨てる

- ・ごみ出し支援を受けたいというニーズを持つ高齢者が8人見つかった

高齢者ごみ出し支援プロジェクト

しかし・・・ 区、地域住民からの不安

- ・善意のボランティアが担い手になってくれたとして、その後には？その人がいなくなったらどうする？その人が休みたいときは？
- ・継続性のあるしくみにしたい
- ・有償の場合、お金の管理はどうする？

➡ 実施には事務局的な機能が必要になる

高齢者ごみ出し支援プロジェクト

シルバー人材センターへの提案

- ①区の中で、10人ほどごみ出し支援利用者を集める。
- ②支援者は軽自動車で10人の家をまわりごみを回収し、集積場へ捨てる。
- ③利用者1人あたり1回200円、実働約1時間で2,000円の収入

「シルバー人材センターが実施しているごみ出し支援の内容」

- ①通常の福祉家事支援
1回1時間1,500円程度
- ②福祉家事支援ゴミ出し支援
1か月4回ごみ出し支援
可燃ごみ1回2袋まで
1か月2,200円

高齢者ごみ出し支援プロジェクト

(7) 本番実施

シルバー人材センターと青木平区が連携し、テスト実施の内容をもとに、令和5年5月から新しいごみ出し支援サービスを開始した。

テスト実施に協力いただいたごみ出しに困る高齢者を中心に利用している。



シルバー人材
センター
ごみ出し支援
(青木平区)

担い手

シルバー人材センター(青木平区の住民が会員となって実施)

内容

対象者の家の前に回収ボックスを置き、水曜日の朝、車で家をまわってごみを回収し、まとめて集積場へごみを捨てる

料金

月880円(週1回で月4~5回)

シルバー人材センター×青木平区 福祉家事援助ごみ出し支援事業

・青木平区

支援を受ける人から、半年に一度区民館で利用料をまとめて集金し、シルバー人材センターへ払っている

・シルバー人材センター

青木平区の住民(Sさん)に会員になってもらい、仕事としてごみ出し支援を実施する。もし担い手が休みの場合は代替えの人員をシルバー人材センターで出してくれる

・地域住民

今はテスト実施協力者だけだが、今後、年齢に関係なく、月880円払えば家の前からごみを回収する支援を受けられるようになる



シルバー人材センター×青木平区 福祉家事援助ごみ出し支援事業

実施主体が行政ではなく、地域住民×民間団体だからこそ、対象者に制限のない支援になった

・これからの課題

区の協力が必須のため、必ずしも他の地域でそのまま展開できるものではない。

他の地域でごみ出しにニーズがある人をキャッチしたら、青木平区の形を参考にしながらその地域で実施を検討していく必要がある

高齢者移動支援 宮タク利用促進プロジェクト

(1) 移動支援ワークショップ

運転免許証返納者から生活の変化について話を伺ったうえで、移動に関する課題を整理するワークショップを令和4年7月22日に開催した。主に、公共交通機関(バス、宮バス、宮タク)をもっと上手に活用する方法はないかという課題が挙げられ、第1層協議体で協議した結果、公共交通機関、とくに宮タクの活用について検討することになった。



高齢者移動支援 宮タク利用促進プロジェクト

(2) 上野地区社協 宮タクサポーター研修会

宮タクの活用について、上野地区社協と連携して検討することになった。令和5年2月2日、上野地区社協のメンバー28名を対象に宮タクのルートや具体的な使い方についての研修会を実施した。また、研修後、宮タクの利用促進を地域に促す声かけについて協力者を募集したところ、11名の方から協力を得られた。



高齢者移動支援 宮タク利用促進プロジェクト

(3) 上野地区社協 宮タク利用促進プロジェクト

上野地区社協メンバー11名協力のもと、令和5年2月から4月までの3か月間、宮タクを利用できそうな人への声かけを実施した。結果、期間中で97名の方に声かけを行い、宮タクの新規登録者及び輸送人数の大幅な増加につながった。

本プロジェクトにより、宮タクの利用促進には個別の声かけが有効だと分かり、結果については提言書へまとめることになった。

宮タク登録者	上野地区 77名(令和5年2月～5月中) 富士宮市全域 204名(令和5年2月～5月中)
宮タク輸送人数	上野地区 1,831人(令和4年度中) (令和3年度、1,014人から81%の増加)

高齢者移動支援 宮タク利用促進プロジェクト

(4) 高齢者移動支援に係る地域連携会議

富士宮市の各地域で公共交通機関の活用について検討しており、地域間の情報を市全体で共有し、各地域の連携をはかるため、会議を開催した。

上野地区の宮タク利用促進プロジェクト、芝川地区の宮タク利用促進動画、北部地区や大富士地区のバス活用ツアー等の取組みを参加者で共有し、各地域ごと公共交通機関の課題や意見交換を行った。



今後も継続して、公共交通機関活用のため各地域の連携をはかることを確認した

まとめ

ごみ出し支援プロジェクト、宮タク利用促進プロジェクトは、数多くの関係者が連携したことで、地域で新たな生活支援がはじまったり、宮タク利用促進のきっかけが生まれました。

地域住民、民生委員、地区社協、生活支援コーディネーター、市(事務局、生活環境課、交通対策室等)、地域包括支援センター、社協、シルバー人材センター、ケアマネジャー等専門職、テストに協力してくれた事業所 …

すべてのスタートとなったのは、住民の困っているリアルな声

みなさまがキャッチしたリアルな声を生活支援コーディネーターに教えてください。

参考 富士宮市の人口推移

	2014/8/1時点	2020/8/1時点	2024/8/1時点
0～9歳	11,900	9,974	8,091
10～19歳	13,169	12,645	11,749
20～29歳	13,908	11,997	12,120
30～39歳	17,034	14,378	12,548
40～49歳	19,153	19,067	16,819
50～59歳	16,537	16,982	18,958
60～69歳	20,255	17,783	15,919
70～79歳	14,702	17,565	18,117
80～89歳	8,080	9,391	10,918
90歳～	1,619	2,384	2,658
高齢者数	33,782	38,402	39,318
総人口	136,357	132,166	127,897